

## (T-cell lymphoma of proventriculus in laying hen)

奥村 尚子

**解説：**腺胃で増殖がみられた異型細胞は、免疫染色で T 細胞マーカーである CD3 陽性に染まり、T 細胞性リンパ腫であることが明らかになった。本症例以外の 4 羽についても末梢神経や消化管漿膜面の末梢神経へ異型細胞の浸潤が確認され、鶏群として、鶏のマレック病と診断された。マレック病ウイルス特異抗原に対するモノクローナル抗体（動衛研）を用いた免疫組織化学的検査により、腺胃粘膜固有層に浸潤するリンパ球様細胞は、異型細胞と炎症性リンパ球が混在していた。本鶏群の次に農場へ

入雛した鶏群についても、大雛期に同様のあくび様開口呼吸を認め、検査した結果、頸部の末梢神経へ異型細胞の浸潤が認められ、マレック病と診断された。頸部神経への異型細胞浸潤が開口呼吸の一因と推察された。マレック病の内臓型では、肝臓、脾臓などのリンパ腫とともに、腺胃でのリンパ腫も時にみられるが、本症例のように腺胃のみに著しいリンパ腫を示す症例はまれである。なお、孵化場におけるマレック病生ワクチンの株を CVI988 株へ変更し、続発は認められていない。

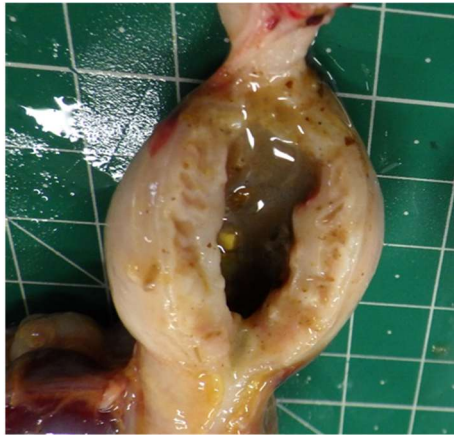


写真 1. 腺胃壁は水腫性肥厚していた。

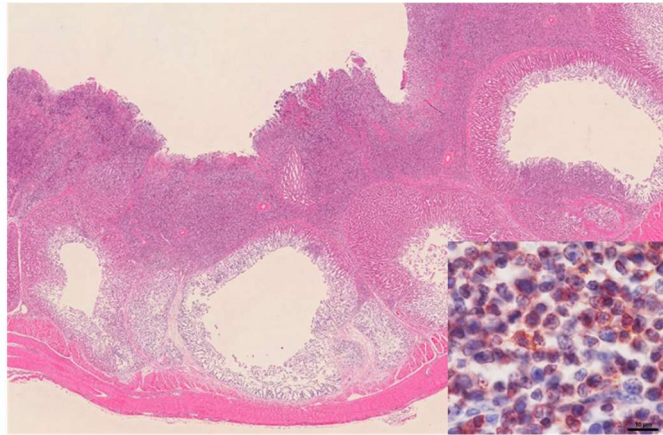


写真 2. 腺胃腺上皮から下組織にかけてリンパ球様腫瘍細胞が浸潤増殖し、深部胃腺腔は拡張していた。挿入図：腫瘍細胞は抗CD3抗体陽性を示した。